



農作業×7

小麦の今後の管理 4つの対策

今年の秋は好天に恵まれ、小麦の各種作業が順調に行われました。今後は麦踏みや追肥等の栽培管理を適切に行い、小麦の収量・品質の向上に努めましょう。

対策1 排水溝と排水口の設置

茎立ち期や登熟期に湿害を受けると、収量が低下します。特に出穂前後から登熟期に湿害を受けると「枯れ熱れ」が助長され、品質・収量が大きく低下します。

このため、まだ排水用の溝を作っていないほ場では、溝あげロータリー等を使って、ほ場の周囲及びほ場内に5〜10m間隔に溝を掘り、排水口につなぐ対策を実施しましょう（図参照）。

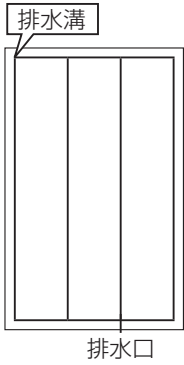


図 排水対策の例 (30aほ場)

対策2 追肥の実施

小麦子実中のたんばく質含量は小麦の品質を決める大きな要因で、追肥によるたんばく質含量の向上が必要です。

熊谷市の平成30年産小麦のたんばく質含量は基準値以下となりBランクになりました。基準値以下になると直接支払交付金額が少なくなり農家の皆さんの所得にも影響します。

「さとのそら」は特に生育後半に窒素吸収量が増加する品種ですので、追肥を確実に実施し、子実のたんばく質含量を高め、品質・収量の向上を図りましょう。

追肥の方法は、普通肥料を2回に分けて追肥する方法と、緩効性肥料を利用し、追肥を1回に省力する方法の2通りがありますので、表1を参考にしてください。

表1 追肥方法の例

追肥の方法	肥料銘柄 例	施用量 (kg/10a)	
		1回目 (3月上旬)	2回目 (3月下旬~4月上旬)
2回に分けて追肥する方法	化成肥料17-0-17	12	12
	硫安	10	10
	化成肥料14-14-14	14	14
1回で追肥する方法	さとのそら追肥専用 (石灰窒素4.5%)	20	-

表2 茎葉兼土壌処理剤（雑草茎葉散布または全面土壌散布）

薬剤名	適用雑草	使用時期	薬用使用量 (希釈水量)/10a	使用回数
リベレーターフロアブル	一年生雑草	は種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで)	60～80ml (100%)	1回
ボクサー	一年生雑草	は種後～麦4葉期まで (雑草発生前～発生始期)	400～500ml (70～100%) ※小麦2葉期までは50～100%	2回以内
ハーモニー75DF	一年生広葉雑草、スズメノテッポウ	は種後～節間伸長前	5～10g (100%)	1回

表3 茎葉処理剤（雑草茎葉散布）

薬剤名	適用雑草	使用時期	薬料使用量 (希釈水量)/10a	使用回数
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	生育期 (雑草の3～6葉期) 但し収穫前45日前まで	100～200ml (70～100%)	1回
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	小麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期、ヤエムグラ2～6節期) 但し、収穫45日前まで	50～100ml (100%)	2回以内

農薬は平成30年11月21日現在の登録状況に基づいています。農薬を使用する際は、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう。また、周辺作物への飛散防止に努めましょう。

対策3 麦踏みの実施

麦踏みは、根張りを良くし、耐倒伏性の向上や凍霜害防止等に効果があります。

麦の3葉目が見え始めた頃から茎立ち前(3月中旬頃)までに、2週間程度の間隔をあけ、合計2～3回を目標に麦踏みを実施しましょう。

対策4 雑草防除

播種後に雑草が多発した場合は、茎

葉兼土壌処理剤(表2参照)を散布し、小麦の生育期に雑草が多発した場合は茎葉処理剤(表3参照)を散布しましょう。

ほ場ごとの優占雑草や小麦の生育ステージを早めに確認し、遅れることなく実施しましょう。

(大里農林振興センター 農業支援部)